

新図書館建設基本計画（案）パブリックコメント結果

受付期間：平成21年2月1日から3月2日

意見数：提出者14名、意見総数26件

（※意見は要約してあります。また、同趣旨意見はまとめてあります。）

1 図書館の理念、運営の在り方、蔵書についての意見

<意見>

基本理念について、バックボーン（基本的認識）としての「図書館の自由に関する宣言」に、本文内で言及してほしかった。

【考え方】

図書館の自由に関する宣言は、運営・管理の項目で、小牧市立図書館の遵守していく姿勢として明示しています。

<意見>

意見交換会にも参加。50代以上の方が多く、これから新図書館を利用する世代や駅前商店街の方、地元の企業の方などもっと広く集まっていただけるように広報をしたらよいのではないか。

【考え方】

市の広報やホームページで意見交換会開催についてPRをしましたが、参加された方々は、ご指摘のような世代が中心でした。

開催については、今後さらに意を配したPRに心がけていきたいと考えています。

<意見>

運営、管理について。新図書館ではただの貸出・返却とレファレンスのカウンターはしっかりと離し、設計の段階から司書が司書として働ける造りとしてほしい。計画書にある、継続性のある専門職員の育成を期待。

【考え方】

ご指摘のような考え方に沿った運営のできる図書館を目標として計画していきたいと考えています。

<意見>

活字の大きい本も増やして下さい。

【考え方】

新図書館は、今までご利用いただけなかった人たちにも来ていただけるよう、居心地の良さにもつながるよう資料の収集等も十分考慮していきます。

<意見>

蔵書計画の数値が、合計段階になって図書の「冊」も視聴覚資料の「点」も一緒にした

702,200点となっています。蔵書冊数の675,000冊で出すのが普通じゃないか。

【考え方】

新図書館は、図書以外の資料である視聴覚資料や絵画等にも収集の重点を置く予定ですので、すべての資料点数を含めた目標値としました。

2 建設予定地と駐車場や周辺環境整備についての意見

<意見>

建設予定地の明記について、A街区であることが、自明なことなのか。

基本構想からの展開が今ひとつ理解しにくい。

【考え方】

基本計画作成にあたって、建設予定地を明らかにすることが必要でしたので、市民アンケートや来館者アンケート結果を参考とし、図書館整備計画委員会や市議会の文教行政を担当する各議員による協議会で審議いただき、進めてきたものです。

<意見>

雨にぬれることなく図書館へと行けるようにしてほしい。駅から地域館機能のある階へ導線があるとともに、電車を利用せずに来館する利用者にも入りやすい図書館であってほしい。図書館単独ではなくカフェや子育て支援の施設と一緒にあるとよいのではないかと最近できた、日進や岡崎の図書館も是非参考にしてほしいです。

【考え方】

小牧駅からA街区にあたる駅西広場については、関係部署へご意見を伝えさせていただきます。

新図書館については、カフェ等のくつろぎスペースや、集客力のある施設、生涯学習及び生活支援につながる施設等との複合化についても検討を行っていきます。

<意見>

図書館は、現在地で建て替えるのがベスト。

駅前でするのであれば、小牧駅前の一等地。多目的広場などはいりません。

A街区丸ごとビックリする内容と外観の図書館を建てるべき。

市外からでも、人が集まる図書館にすべき。

駐車場は、必要ない。電車と巡回バスの利用で、カバー出来るはず。

【考え方】

建設予定地は、市民アンケートや来館者アンケート結果を参考とし、図書館整備計画委員会や市議会・文教行政担当議員による協議会で審議いただき、A街区を望む人が多い、A街区は交通の便が良い、駅前の賑わいの創出も期待できる、などの理由で予定地となりました。

具体的な面積は、A街区の再開発を所管する部署とも協議してまいります。

アクセス方法は、電車や巡回バスの利用を促す必要性は高いと考えますが、複数の図書を一度にお借りになる利用者も多く、車による利用を無視できないと考えております。

<意見>

マンション部分を除く、A街区丸ごとビックリする内容と外観の図書館を建てるべき。敷地スペースにアキがあれば、小牧の顔として、山車を飾っていただきたい。常時飾っておけば、それを見に来る人もいるはずです。小牧の文化歴史の、いいカオになります。

【考え方】

新図書館は、複合施設とするかどうかも含めまして、集客力を増すためのアイデアをいろいろ工夫する必要があると考えております。

ご提案のような大型の展示物は、スペースの確保をはじめ、地元の了解、祭事使用に支障がないか、などの点を解決する必要があると考えます。

<意見>

マンション部分があって、狭くなった。A街区を、多目的広場などで分断する事は絶対にしないでください。

民間サービス施設や商業施設などは不要。中途半端になるだけです。敷地全部図書館にしてください。驚くような図書館を希望。

【考え方】

新図書館については、利用者層が固定化しないよう、誰もが利用する魅力ある施設にしていきたいと考えています。

また、A街区のどの場所に、どのように立地させていくかは、ご意見を参考にさせていただきながら、関係部署とも十分協議していく予定です。

<意見>

現状把握で現図書館は駅から1KM、徒歩で15分、公共交通の利用がしにくい立地をしている。(P7)(P38)の駐車場台数の計算は小牧市民16万人全体を対象にしているが、地区の図書館で充分満足している利用者までカウントして駐車台数の積算は過大評価すぎる。公共交通機関の利用者が増加する手段を講ずるべきだと思う。又、公共交通機関へシフトすべきではないか。(P35)(P32)

【考え方】

中央図書館の利用率は、他市事例からみても、その機能の充実度により大きく異なると考えております。

新図書館は、その施設規模と資料数において、現在の図書館を数倍上回るよう計画しています。これからの図書館に必要な多くの機能を充実することによって、従来からの利用者だけでなく、市全域から新たな利用者が多く来館されますので、一定の駐車スペースは必要と考えています。

公共交通機関の利用促進は環境問題の面からも努めるべきと考えていますので、公共交通の利便性の高い小牧駅前を建設予定地としたことで、公共交通の利用増になることを期待しています。

3 設計業者の選定方法

<意見>

世界の建築家からコンペにより設計者を決めてみてはどうでしょうか。お金は多少掛かりますが、市の中心駅の真ん前だからこそ建築家によるまち全体に対しての案を世界から求めるべきだと思います。それだけA街区の敷地は魅力を持っていて重要な敷地だと思います。

【考え方】

新図書館は、建設地域の賑わいの創出も考慮し、集客力のある施設づくりを目指しております。

設計事業者選定方法は、コンペ方式はそれ自体に新たな経費が必要となりますので、現在のところ公募型プロポーザル方式を前提に検討を進めています。

4 建物規模や設備等についての意見

<意見>

畳コーナーや絵画コーナーなど、他の図書館のいいところ取りのようなコーナーがありますが、小牧市は企業誘致のおかげで産業活動も盛んですし、ビジネス支援コーナー及びサービスをどんな市よりも充実させるなど力を入れるところを決め、あれもこれもというのは避けてほしい。

【考え方】

今まで図書館に足を向けなかった人たちにも新しい利用者になっていただき、多くの市民に利用される新図書館をつくることに意義があります。

要望や考え方が多様化しています現況では、特徴を持ちながら多目的な活用を視野に入れることが、利用者を増やしていくための有効な方法と考えています。

<意見>

100年に一度といわれる大不況の中、小牧市では税収が激減していると思われます。

このような中、大きな箱物行政は反対します。

ただ現在の図書館は老朽化と手狭になってきているのは事実だと思います。本を所蔵するスペースに見合った規模の図書館を建設することを希望します。使用目的が明確でない部分は計画に入れてしまっただけではいけないと思います。

ラピオの4階は絵本図書館や広場があってよいのですがリフォーム相談会会場というよくわからないものが同居していて変だなと感じるように大きな箱物を作ってからそのスペースの使用目的を探すというのは本末転倒です。

それよりも今は福祉や生活保護に重点を置くべきときだと思います。大きな建築物はいらないです。

【考え方】

新しい図書館は、本を多く蔵書する機能だけでなく、市民の課題解決、情報発信、生活支援のため利用される施設として計画してきたもので、建設資金の積立を継続しております。

新図書館は小牧地区の地域館機能と市全体をサービス圏とする中央館としての機能を併せ持ち、生涯学習、ビジネス支援等今まで不十分であった図書館サービスを推進できるよう計画しております。

そのためには、ボランティアによる支援活動や地元産業界との連携がなくては事業推進ができませんので、図書館ボランティアや商工会議所のご意見を参考に、各種研修会場やボランティア活動の部屋を計画したいと考えています。

なお、ご指摘にありました、えほん図書館南側のスペースは店舗側の利用エリアになっております。

<意見>

中央館機能として、専門図書開架とともに第二開架（公開書庫）もあるようですが、分かりにくい。計画書には第二開架は「基本的な資料集等を配架」とありますが、それであるなら専門図書開架と混配してしまえばよいのではないかと？

開架、閉架のどちらかであるのが分かりやすく、公開書庫というのは不要。

【考え方】

現在、小牧の図書館は専門書と参考図書を別置する方式をとっていますが、新図書館では参考図書の横に関連する専門書を置き、調査研究の便宜を図ろうと考えています。

さらに第二開架には、必ずしも専門書と分類されない双書や全集といった資料集等を置き、閉架書庫と比較して調査等が利用者自身で行いやすいように計画しています。

<意見>

トイレに関する意見

- ・洋式トイレを増やして下さい。
- ・各フロアーにあり、わかり易い所（障がい者用も）
- ・バリアフリー
- ・個室の数

女性用は3個、男性用も2個、男性も老人性排尿障害で個室で用を足す必要がある。

- ・内装などはデラックスにしないでよい。

【考え方】

新図書館は、健常者から障がい者の方々にいたるまで、今までご利用いただけなかった人たちにも来ていただけるよう、魅力ある施設にしようと考えていますので、居心地の良さにつながりますトイレの設計には十分配慮し、また、その数や場所も全体の設計の中で考慮します。

<意見>

中央図書館機能に研究個室×5室、グループ学習室×3室、ピーク時400人で来館者のすべてが座る計算は過大だ。又「個室は死角となり、犯罪の発生やアベックの不純な場所となりはしないか？」と他の公共図書館でも指摘されている。ブース対応にしてほしい。
※最近若者の自動車離れが加速的に増加している、又高齢化で自動車運転が減少化し

ている。

※全国6大都市で本を読まない第一位は愛知県の統計が出ている。本を読む市民に育てたいものだ。場所を提供すれば良いのではない。

<意見>

個室を造られるとのことですが、図書館に個室は必要ない。なぜならば、個室は死角となり、思わぬ犯罪の発生や不純な交流の場となることも考えられます。これは、他市公共図書館でも指摘されていました。ブース対応で用をなすのではないかと考えられます。

【考え方】

新図書館の利用形態として、従来の貸出中心だけにとどまらず、ビジネス支援をはじめ、調査や研究などで時間を要する形態が増え、数時間以上にわたる滞在型の利用者が増えるものと想定しています。

また、調査・研究に個室は必要と考えていますが、ご指摘のような危惧が発生しないように見通しの良い仕切りやレイアウトに配慮いたします。

新図書館は、場所だけの提供で終わらないよう、子どもから大人まで、求められている様々なサービスを提供できるように、資料面の充実や人的支援を実現できるように努めていきたいと考えております。

※参考

市名 中央館貸出数／全貸出数：中央館貸出率

刈谷市 686千冊／916千冊：74.9%

岩国市 966千冊／1,417千冊：68.2%

浦安市 1,061千冊／2,040千冊：52%

小牧市 387千冊／981千冊：39.4%

<意見>

「なぜ、今、新しい図書館が必要なのか？」というのはどうなのでしょう？

なんだか官僚の作文みたいな文書で、納得できません。

ハードでなくソフトの充実を図って欲しい。

【考え方】

新図書館の必要性に関する記述は、現実の問題として受け止めているもので、平成19年度と今年度の2年間、公募委員や有識者による委員会を組織し、審議を進めてきた結果として、前年度は基本構想を、今年度は基本計画案を公開させていただきました。

現在図書館は、蔵書数のみでも設計限界を超えているため、所蔵図書を文化資産として保存し、新しい図書をみなさんの知る権利の保障や調査研究のため、収集していくということが十分にできない状況にあります。

閲覧席数、市民活動の場、駐車場不足等も、多くの市民の方々から窓口やアンケート等で、ご意見としていただいております。

ソフト面につきましては、ハードにとらわれないサービスの充実を図ってきておりますが、今後も一層努力してまいります。

5 えほん図書館やギャラリーなどとの重複・連携についての意見

<意見>

現在「ラピオ」にあるえほん図書館を、新図書館オープン後も並存させるようですが、あの至近距離で同じような機能をもつ施設が2つあってもどっちつかずになってしまうと思います。無駄であるとともに、利用者も分散してしまいます。新図書館に現在のえほん図書館を丸々移す+ヤングアダルトサービスを追加するというイメージがよいと思います。

【考え方】

えほん図書館は隣にある子育て広場と連携した乳幼児を対象とする子育て支援施設としての性格をもっていますので、例えばある程度は声を出したりしても良い施設として運営しております。

新図書館は、中学生など対象年齢も広く、図書館らしい利用マナーも求めるものになり、設置目的が異なっていると考えています。

<意見>

えほん図書館とラピオのセンターモールおよび多目的ホールの施設の重複について。新図書館の児童室は、えほん図書館と機能が重複。絵本や紙芝居45,000冊。ギャラリー展示スペース、イベントエリアも重複していませんか。

市内施設の配置と展示スペース利用団体数および、その人口をどのように積算されたのか。本当に利用する人がそれだけあるのか。

【考え方】

えほん図書館は、おもに0歳児から7歳までくらいの乳幼児とその保護者に、絵本の提供や読み聞かせの活動等をとおして、子育て支援を実現していく施設です。

新図書館の児童室は、中学生までを対象とし、各年齢層に合った読書活動の支援を図っていくところですので、サービスの基本が異なると考えています。

ギャラリーは、新図書館では市民個人や少人数グループによる小規模な展示を想定していますので、団体の利用を前提としたセンターモールや市民ギャラリーとは利用形態が異なります。

個人レベルでの自由な作品発表の場を提供できることは、市民文化の醸成に寄与できる大切なポイントであると認識しています。

6 現行図書館建物の再活用への意見

<意見>

図書館の駅前移転・拡張には、絶対反対の考えではありません。現図書館の施設では、狭隘化や耐震性の低さは事実であり、何らかの対策が必要だと、感じられるからです。

しかし、現在の図書館の建物を取り壊すのは反対です。小牧市立図書館の建物は、現代建築の傑作として、高く評価されています。それを取り壊すのは、小牧市の文化行政における損失と考えられるからです。現在地において、既存建物の改修、および北側の南児童館部分に増築、としてもよいのでは。もし、それが無理ならば移転もやむをえないが、建

物だけでも、何らかの形で残せないか。

春日井市や稲沢市、豊田市には、すでに中央図書館というべき、立派な建物があります。一宮市にも、駅前に中央図書館をつくる計画があります。それに負けないような、むしろ全国に誇りうる、大規模な施設を望みます。

【考え方】

現在地での建物の改築等による図書館としての継続活用は、児童館部分を含めましても面積が不足し、交通の便が悪い等の問題もあり、実現は困難と考えています。

現在の図書館は、ご意見のとおり貴重な建物でもあり、再活用を前提に検討する予定となっていますが、今のところ具体的な活用・改修方法が未定で、今後の課題と捉えております。

新図書館については、できる限りみなさんのご意見を反映した、優れた図書館施設となるように努めてまいります。